

農業開発で心掛けるべきこと

今回八田與一さんに関する授業を受け、私は農業開発においては開発する側だけではなく、開発される側の立場にも立って行うべきだと思いました。八田與一さんは、日本から台湾に渡り台湾の巨大ダム事業を任されましたが、そのときもその地域に暮らし、実際にダムを将来的に使う人のことを大切に考え、巨大なリストラが必要なときも、台湾人ではなく日本人をリストラにしました。このように、農業開発をする側に立っている場合でも、開発する側だけではなく、開発される側のこともしっかりと考えなければなりません。

しかしながら、開発される側のことだけを考えるのではなく、実際に開発を行う事業者や資金の提供者のことも考えなければなりません。開発のために開発を行う側の人が必要な犠牲を払ってまで行うのは、元も子もありません。八田與一さんの例をとると、日本人をリストラにした後にあらゆる団体に資金提供の協力を依頼し、結果的に一年後には解雇した日本人全員を再雇用することができたそうです。したがって、農業開発を行うためには、開発する側、される側の両者の立場に立って考え、行動することを心掛けるべきだと考えます。